

9月の授業記録をお送りいたします。

黄葉の候——ご父母各位におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

季節の移ろいというものは大変早いもの。辺りを吹き抜ける風は、日を追うごとに肌寒く感じられます。辺りの木々は次第に色づきはじめ、一段と深まる秋をひしと実感する今日この頃でございます。



さて、今月は所沢市内の多くの中学校で「定期試験」が行われることと存じます。個別指導会講師陣一同、在塾生のみなさんが1点でも良い点数を取れるように全力でバックアップしてまいります。定期試験一週間前より各校舎にて連日「定期試験対策」を実施しておりますので、ぜひ積極的に塾へ入室するようお子様にお声がけをお願い申し上げます。

また、下記にもございますように、**今月から来月にかけて、当塾では受験生のご父母を対象にした「個別面談」を行わせていただきます。**お忙しい中かとは存じますが、各位多数の出席をお待ち申し上げます。

■塾からのご案内■

① 高校入試ガイダンスを実施いたしました。

10月13日(土)・14日(日)に、個別指導会の各校舎にて、高校受験生のご父母を対象にした「高校入試ガイダンス」を実施いたしました。各位多数のご参加、まことにありがとうございました。

② 高校受験生のご父母を対象に、「個別面談」を実施します。

10月下旬から11月中旬にかけて、高校受験生のご父母を対象に「個別面談」を実施いたします。各種の詳細な資料をもとに最新の受験情報をお伝えしながら、お子様の志望校選定をサポートしてまいります。別紙にてご案内をお送りしますので、詳細はそちらをご覧ください。

③ 中学生対象 土曜無料補講・定期試験対策 実施中。

原則毎週土曜日、各校舎で「土曜無料補講」を、また定期試験の1週間前より連日無料で「定期試験対策」を実施しております。とりわけ高校受験生にとっては大変重要な試験です。個別指導会の講師陣一同が全力でバックアップしていきますので、ぜひ積極的にお子様を入室させてください。

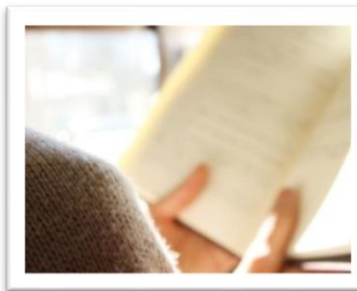
※ なお、それぞれの実施時間等は各校舎によって異なりますので、詳細はお子様のご通塾する各教室までお問い合わせください。

学習のアドバイス

今回のテーマは国語の「古文」ですが、みなさんの中には「なぜ昔の文章をわざわざ勉強するの?」と不思議に思っている人もいらっしゃるかもしれません。そこで、まずは古文を学ぶ意義についてお話ししたいと思います。古文を学ぶ意義は、時代を越えても変わらない“私たちの心”を見つけることにあります。一口に「古文」といってもその範囲はとて広く、時代や作者の身分、作品のジャンルも多種多様です。それが長く読み継がれてきたのは、そこに描かれた人々の生き方や考え方が現代の私たちと変わらない真実をたたえているからです。その真実こそが“私たちの心”であり、これを感じることで人生が豊かになります。古文を勉強するときには、少しでも“私たちの心”を感じるよう努めてください。

では、具体的な勉強法についてお話しします。一番簡単で力がつく方法は「音読練習」です。ポイントはとにかく「何度も読むこと」です。声に出して30回以上読めば、訳さなくても意味が分かってきます。これは「古文をそのまま味わうことができる」ようになった証拠です。ぜひ試してみてください。

音読に慣れてきたら、次は「ノート作り」です。ノートの真ん中に線を引いて上段に原文を書き写し、下段にポイントをまとめていくのですが、注意点があります。それは「原文を句点・読点で改行する」ことです。こうすることで黙読が



しやすくなり、内容が自然に頭の中に入ってくるようになります。

また「古語辞典は必要ですか?」という質問をよく受けるのですが、中学校では特に必要ありません。ただし、高校に行ったら必要になりますので、今のうちに選び方のポイントを押さえておきましょう。最大のポイントは「例文」です。古語は意味がいくつかあるものが多いので、それぞれどんな使い方をするか用例があるほうがわかりやすいです。しかもその用例に訳があるとさらにわかりやすいですから、タイトルに「全訳」とついている辞書をよくつか読み比べて気に入ったものを選ぶようにしてください。



平成31年度入試の展望 ②

前は県立高校の人気についてお話ししましたが、いかがでしたでしょうか。今回は私立高校の推薦基準についてお話しさせていただきます。

県立高校入試が一本化されたことに加え、入学金や授業料などに対して全国でもトップクラスの支援金制度があるため、埼玉の私立高校全体の入学者数は増加傾向にあります。昨年の単願応募者数は前年より約4%増、併願は約1%減ですが、公立受検者の減少と単願応募者の増加分を差し引くと、併願も増加しているといえます。これに伴って推薦基準も年々厳しくなっており、今年度もほとんどの学校の推薦基準が横ばいか、上昇しています。概要についてはガイダンスおよび個別面談で説明いたしますが、詳細につきましては学校説明会および個別相談会に参加をして確認していただきたく思います。

推薦には内申による学校推薦と、偏差値による自己推薦がありますが、特にどちらが有利ということはありません。また、基準の数値はその学校の合格者の平均値に基づいて決められます。目安としては偏差値50で内申9科30ぐらいとお考えください。そして、特に注意していただきたいのが、前年度の入学者数です。私立高校は県立高校と違い合格者が必ずしも入学するわけではありませぬので、入学者数が募集定員を大幅に上回ってしまった場合には、人数調整のため基準が厳しくなる可能性があります。少しでも不安や疑問をもたれた場合には、各教室長に必ず相談してください。



教室長日記

「教科書が読めない」のはなぜ?



「A I vs.教科書が読めない子どもたち」という本が話題となっています。書店で平積みされているので、ご存知の方は多いのではないのでしょうか。

その内容は「A I」に何ができて何ができないのかを探りながら、「A I」の実像と人間の弱点について論じたものとなっていますが、その人工知能プロジェクトの過程で学生の読解力に疑問を抱いた著者は、実態を正確に把握するために中高生を対象として基礎的読解力判定のテストを実施します。そこで判明したのは、かなり深刻な事態だったのですが、詳しい結果を知りたい方は、実際に読んでみてください。

とにかく、**子どもの読解力に異変が起きていることは確か**です。その原因を考える上で気になる調査結果を見つけたのでご紹介します。それはスマートフォンの使用と学力との関係についての調査なのですが、仙台市内の小中学生7万人を対象に調査した結果、**スマートフォンの使用で明らかに学力が低下し、使用を中止するとまた学力が向上することが分かりました。**なかでもLINEなどメッセージアプリの影響が大きいようで、**使用時間が長くなればなるほど学力が下がる傾向にあります。**

調査を行った「脳トレ」シリーズの監修者として知られる東北大学の川島隆太教授によれば、勉強中に友人とメッセージをしながら…といったマルチタスク化が進むことで集中力がそがれてしまうため、勉強の効率が落ちてしまうことが、要因の一つとして考えられるそうです。

スマートフォンは「利用時間を1時間以内に留める」など、自制心を持って利用すれば悪影響がないことも分かっています。家庭内でしっかりとルールを決めてうまく活用してください。

(東所沢校 安斎)